

## 東京都退職校長会



## 会報

発行所 東京都退職校長会  
 発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日本退公連・鈴木共同ビル5F  
 電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ [totaikou.jp/](http://totaikou.jp/)

## ◇情熱と結束のあの瞬間

今、一枚の写真を手にしている。  
 2020年1月の新年懇親会の光景だ。舞台上気丈な元女性校長さん達が笑顔で歌っている。万雷の拍手に釘付けとなったあの瞬間が何故か懐かしい。〈組織の結束に理屈はいらない、必要なのは熱い情熱―パッション―だ〉と。思い出は流れゆく雲のようだ。人の世の不思議の出会いに、「乾杯」。

## ◇いつまで続く、コロナとの戦い



現在は矢のように早く、未来はためらいつつ  
 近づく―あの日、あの時、ひとりごと―  
 東京都退職校長会会長 多田 丈夫

新型コロナが世相を大きく変質させた。人々の意識も混乱している。行動変容を求められ、〈やったことのないことをやれ〉と言う。人は会

うだけで何かが分かるのに、ままならない。はてさて、世の中、分刻みの時が遠のき、すべてが0からの出発。我々の諸行事も二転三転。やることなすこと杞憂なのか。この深刻なコロナとの戦い。〈馬鹿にしないでよ〉と苛立つ。この危機的状況を如何に脱却するか。今や、蓄積され

たエビデンス（科学的根拠）に学び、時の流れに身をまかせるしかないのか。

## ◇人生、捨てたものではない

ここにきて、引き算で考える人に悩む。〈これまでとこれから〉を比較するからか。「冬来たりなば、春遠からじ」と願う。さて、我々にとつて教育は命。未来永劫、信じて、支えて、伸ばす日々でありたい。そして希望深く、威風堂々と歩もうではないか。

人生いろいろ、捨てたものではない。期待しよう、未来はためらいつつ近づいている。

## ◇ワン・チャンスこそ、特効薬

会則の改正と会員増強に渾身を込めた。この取り組みに新たなマインドをと叫び再興を促した。組織の衰退など許さぬとの天の声に、皆で半歩先を見据えた。支部長会の権限強化、会員の呼称の統一、内規の見直しに、必ず実ると命運をかける。支部と現職校長会との絆をもっと強め

たい。求めるは結果のみだ。まだ、道半ば。万難を排し、One Chance at History.（歴史を変えよう）。ただ、それだけだ。

## ◇「賢者は歴史に学ぶ」という

日々、難しい舵取りを迫られた。肝心なのは、我々が皆で歴史を作っているということだ。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」と。ドイツの宰相ビスマルクの名言。立ち止まり、自問反芻する。未だ、予期せぬ出来事が続く。〈ただ、私の仕事は文化の違いを超え、滑らかに組織を回転させたに過ぎない。〉あれから6年、心豊かな歳月が流れた。都の空に、光きらめく。

## 主な記事

- P1 巻頭言 会長挨拶
- P2 コロナ禍の中の各部現状報告
- P3 会員増強推進プロジェクト・チーム コラム
- P4 新入会員の声
- P5～P8 コロナ禍の中の支部活動
- P6 令和2年 秋の叙勲受章会員  
高齢者叙勲受章会員  
作業部会答申内容の概略
- P8 物故者、編集後記

# コロナ禍の中の各部現状報告

## 会員の動静把握が課題

総務部庶務担当部長 鈴木 一徳

庶務の仕事は、大きく二つある。一つは、総会、評議員会、支部長会等の準備である。これらは、すべて中止となっている。

もう一つは、会員の入会、退会、逝去、異動など動静の把握と整理、名簿の作成などである。

会員数は、令和元年九月末で集計したが、その後は整理できないままに活動の自粛、事務室の閉鎖となってしまった。そこで、本部宛に報告された文書を事務局長が部長に転送し、整理した。そうして、令和二年度の会員名簿の原稿も作成した。

課題は、報告の書式が様々になり、重複、時期のずれ等受付が煩雑になっていることである。本年度退職予定者宛の年賀状は、事務局で宛名シールを作成し、葉書に貼付して投函した。

## 会計部の活動

総務部会計担当部長 小久保正己

本年度の会計部は、私の他男性二人、女性二人の理事で構成されている。会計部の業務は、事務局長の適正な予算執行を補助し、会計処理を行い、会費納入状況を把握し、財務の見通しを立てることである。コロナ禍のため、各部会は中止となり、事務局長が必要不可欠な業務を行い、それに関連する会計処理を行うが、部会が開けないため、私が単独で行ってきた。幸い郵便局の振替受払通知はオンラインでの通知となったため、自宅のパソコンで把握し、支部ごとの納入状況を取り纏めている。地方会員についてはお一人ずつ会費納入等を確認し、事務局長や総務担当にメールで連絡している。それでも郵便局や銀行に行く用事がありマスク等の完全防備で行動している。年度末には部会での確認を行うので、一日も早いコロナの終息を願っている。

## 広報部の活動

広報部長 角田美枝子

広報部はHPと会報に分かれて活動しています。HPは情報を逐次更新し発信しています。

会報は、退職校長会事務局で年間20回開いていた編集会議を往復書簡に変えました。会報部員と原稿執筆者の中にインターネット環境が整わない方等がいりしためです。郵送による編集作業は従来の倍の日数を要しました。その中で会報部員はコロナ禍で生じたゆとりの時間を全て費やすかのように丁寧な作業に当たりました。また編集会議の交通費が皆無となり、経費削減に繋げることができました。尚、今年度は事務局閉鎖に伴い編集作業方法を模索したことと様々な行事中止による常設記事が少ないこともあり発行回数が減りました。次年度はコロナが収束して情報満載の会報をお届けできることを願っています。

## 福利厚生部の取り組み

福利厚生部長 守屋 龍男

福利厚生部では例年五月～六月の各支部の総会に間に合うように、ご長寿(上寿・白寿・米寿・喜寿)の方々や、評議員、支部長、本部理事、クラブ委員長を退任された方々への賀詞・感謝状等の作成や記念品をお届けしていたが、本年は事務室の閉鎖などで、それが出来なくなった。

幸い、会長の英断で、業者委託で作成・発送をしてもらい、九月中旬までには該当の皆様(208名)のご自宅へお届けすることができた。

また、亡くなられた方々(85名)へのご香典も、福利厚生部長の自宅に連絡が入り次第、郵送で各支部長の方々へ送ることが出来た。

現在は令和三年度のご長寿の方々の名簿作りを各部員で分担しながら、各自宅で作成や点検をしている。



## 生涯学習部の活動

生涯学習部長 齊藤 徳蔵

生涯学習部の主な活動である  
(1)年二回の会員研修会(2)クラブ活動について記す。

(1)第一回会員研修会は五月十二日総会の後、―国際理解教育ネパールの女子教育―をテーマに岩谷榮子先生に講演をお願いしていたが、コロナ禍のために十月二十八日になった。しかしこの日も中止、本年度は実施できなかった。岩谷先生の講演を待ち望んでいる会員は多い。正副会長会に提案し、令和三年度総会の後に実施することにした。第二回会員研修会も連絡を取り、計画したが実施できなかった。(2)クラブ委員長会も九月、二月に予定したがコロナ禍のために実施できなかった。活動計画・報告等を文書でお願いした。活動こそ少ないが、各クラブとも大変工夫されていた。

## 連携を創り出す

企画調整部長 高橋 利夫

分断をもたらすコロナとは真逆の連携を創り出す企画調整部の活動を紹介します。

まず、「人材バンク受託事業運営特別委員会」の業務を終了したことです。人材バンク事業は、都教委が設立した「東京学校支援機構」に引き継がれました。都退職校長会として人材育成にかかわってきた歴史を残すため資料の収集に当たっています。

次に、「教育庁幹部職員との懇談会」における『要請事項等』の作成です。保幼・小・中・高特別支援学校にかかわる教育課題をまとめます。これを役員会ほかでの審議を経て整理します。今年度は、コロナが及ぼす影響等も取り上げられました。

直接、言葉を交わす機会は減りましたが、その分電話FAXメールの言葉が温かく感じます。心が通う運営に努めていきます。

## コロナ禍の中の各部現状報告

副会長(業務推進本部長)

桐谷 澄男

## 一・作業部会

会則等の改正の背景には、会員の減少化がある。会員の減少化には都の施策の再任用制度が大きく影を落としている。人生百年時代を前にした定年年齢延長の大きな流れを受けたものである。

我々は、魅力やメリットのある会を創出しなければならぬ。この考えに基づく新たな動きが支部に係わって「会員の新呼称」である。会則等の改正も、背景に会員の減少化が課題としてある。

## 二・プロジェクト・チーム

新型コロナウイルスの席巻を受け、新会員勧誘は苦しかった令和二年度内の入会は一月十日現在五十六名である。

しかし、次なる勧誘が始まる。この春退職予定の方々が中心である。勧誘は八月まで続く。

人は本当に心で動く。やはり対面式の勧誘が欲しい。

## &lt;本会のメリットとは！&gt;

(6回シリーズの第2回)  
会員増強推進プロジェクト・チーム

## 柵(しがらみ)から絆(きずな)へ～旧友、新友、みんな親友～

私は現職時代お世話になった先輩校長から、退職後本会への入会を幾度か勧められ「義理」もあり入会しました。総会や懇親会また研修会等、最初はいやいや参加していましたが、数回参加していくうちに挨拶を交わすようになり、また話も弾むようになりました。

世代や勤務地また校種などの違いはありますが、同じ仕事をしてきた仲間としての結びつきを感じるようになりました。

同期の旧友や年齢の異なる新たな友人と親しく交わり、いろいろな会合でお会いできるのが楽しみになりました。気さくに声を掛け心を通わす友人は私の宝物です。

(平成20年度入会 S・Tさん)

## 新入会員の声

### 感謝と自己研鑽

千代田・中央支部 二田 一則

懐かしの地に帰り幸せです。

私は令和二年一月、豊島区教育長を最後に、四十八年間の教育の第一線を退きました。この間、多くの教え子や保護者との出会い、地域関係者や同僚、先輩諸氏、行政関係者に支えられて成し得たことと感謝しています。また、東京都退職校長会には沢山の学校支援をいただき心から感謝申し上げます。

今日、日本の学校はCOV-D-19の世界的パンデミックの下、未知なる困難に遭遇し模索を続けています。最前線で努力を傾注する校長や教職員、児童生徒や保護者へ、後方から応援を続けたいと思います。さらに、会員相互の交流や研修を通して、自己研鑽に励む所存です。どうぞ宜しくお願いいたします。

## ご縁

台東支部 有賀 康修

昭和四十年九月に化学工業高校社会科担当でスタート。足立区の新設校二校、江戸川区の伝統校、島嶼と品川区で教頭、教育委員会を経て墨田区の伝統校で定年です。

喜寿を迎えて教育関係の仕事を終え、高校退職校長会に出席した折、本会への入会をお勧めいただきました。支部役員の皆様から連絡をいただくとコロナ禍で活動は一時休止です。

健康増進センターでの筋トレは一部再開、旧東海徒歩歩旅行も白隠禅師ゆかりの原宿で中断。信州佐久の実家にも墓参りと旧盆以外は遠慮しています。

ご指導いただいた校長先生から「ご縁を活かすは人生の達人」と学びました。ワクチンの接種も始まりポストコロナの生活が見えてきました。これから新しい出会いにチャレンジです。

## よろしく願っています

中野支部 福田 豊



昭和五十七年に教職をスタートし、令和二年度末にて、小学校から離れます。これまでに様々の方々と出会い、本当にお世話になりました。

今年度はコロナ禍により、十分な学校経営ができませんでしたが、早くコロナ禍が収束するよう願っています。

これまで私は、児童文化、特別活動、レクリエーションを研究してきました。今後はライフワークとして、中野区キャンプ・レクリエーション協会などで活動したり、幼児教育を目指す学生に、大学教員として指導していくつもりです。

さらに自分が「あそび」を楽しむ、次世代に「あそび」の重要性を伝えていこうと思います。よろしく願いいたします。

## 全ての出会いに感謝いたします。

北多摩中支部 齋藤 道

令和二年三月をもって、三十三年間の教員生活に区切りをつけて定年退職いたしました。また後進に道を譲るため再任用は辞退いたしました。八王子市、日野市、狛江市、品川区、羽村市の五地区七校での教員生活は振り返ればあつという間で、大勢の良き先輩や同僚に囲まれ、多くの学びを得た三十三年間でした。それぞれの学校で出会った子どもたち、保護者、地域の方々、仲間、先輩、そして何より身近で支えてくれた家族に深く感謝しています。

四月からは自宅で個別指導塾を開業いたしました。コロナ禍で逆風のスタートとなりましたが、今後は地域の子どもたちの基礎学力向上のために力を尽くしていこうと考えております。今後も引き続きご指導いただけますようお願い申し上げます。

# コロナ禍の中の支部活動

## 「小さな工夫」を

新宿支部長 佐藤 正吉

例年行っていた懇親会やウォーキング兼研修会などの計画は残念ながら中止にしました。しかし、会員が連絡し合える環境をつくることが大切と思い「小さな工夫」で会員相互の関わりを持てるようにと考えました。

まず、支部役員会の回数を絞り、簡単な連絡は携帯メールで行い、詳しくは「役員会速報」としてパソコンメールで、八月から六回発行しました。そして、全会員には、従来通り「役員会報告」を送りました。八月にやつと開いた総会の「報告号」を含めて六回発行しました。

コロナ禍の中での年度末を控え、今年で六十三号になる「会報」に一人でも多くの「会員の言葉」が掲載できるよう、三月の発行に向け目下準備の最中です。

## 会員交流の集い歴史散歩

足立支部長 伊藤 誠一

令和二年は、歴史散歩の会のみを実施しました。令和二年十一月七日・土曜日、参加者七名は御茶ノ水駅前に集合。お茶の水由来の碑を見学したのち湯島聖堂へ。ここは江戸幕府の昌平坂学問所跡。幕末、旗本に

して外国掛の岩瀬忠震の学んだ場所の雰囲気を感じべく係の方の案内を



受ける。その後神田明神、湯島天神へと進み、旧岩崎邸庭園を見学して解散。

総会をやむなく中止、忘年会も悩んだ末に中止した二年度でした。令和三年は順調であることを祈ります。

## 東京都退職校長会会員の皆様へ

昭和51年4月に東京都退職校長会の会員の皆様の福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。会員ご本人様はもとより、ご家族、ご親戚の方々もご利用いただけます。

### 事前相談

どんなに些細と思われることでも  
お気軽に

### ご葬儀

寝台自動車、火葬場  
式場、供花・枕花の  
お手配

### ご法事、 葬儀後の お手続き

家族葬から音楽葬など、あらゆるご葬儀を承っております。  
年中無休・24時間体制、どのようなことでもご相談ください。

フリーダイヤル ☎ 0120-849544 をご利用ください。



経済産業大臣許可（互）第3066号  
株式会社

東京都民互助会

東京都民互助会

検索 🔍

<http://www.tomin-gojo.co.jp>

〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-8 TEL.03-3396-7231 FAX.03-3395-8874



## 令和2年 秋の叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。（敬称略）

瑞宝小綬章（1名） 瑞宝双光章（8名） 山村幸太郎（町 田） 小室 壽彦（北多摩西部）  
向山 行雄（千葉中部） 原田 好男（葛 飾） 村木 通輝（北多摩北部） 小林 裕子（千葉中部）  
鈴木 博久（八王子） 関 隆光（北多摩中部） 緑川 曜子（千葉西部）

## 令和2年 高齢者叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。（敬称略）

（令和2年10月2日以降 令和3年1月27日までに本部に届けがあった方々）

瑞宝双光章（7名） 石田 泰照（板 橋） 坂上 洋之（西多摩） 高橋 典英（埼玉県）  
秋間 政（板 橋） 坂入 秀夫（板 橋） 宿谷 清治（西多摩） 豊原 宏之（埼玉県）

### コロナ禍の中の支部活動

八王子支部長 辻野 宗行

二月に定例役員会を開いて、総会へと準備を進めていたら、緊急事態宣言が発せられ、都の方針等も考え、総会、支部だよりの発行も中止にした。

十二月五日（土）に本年度初めての役員会を開催した。

一、集めた会費を会計に届けられない。↓都への納入も無理。

二、会員数の確認……逝去、退会、転居等の確認の必要性。

三、会計から各役員への年間の交通費等の支払い。

四、米寿者へのお祝いの件、叙勲者の紹介。

五、支部長の「連絡網を使っての連絡の徹底のお願い」を受け、今の時代、オンラインの

必要性和素晴らしさを講演。

※都会長の多田先生も出席され都の現状を知ることが出来た。

「二時間で終了」を守り、悩んだが、開催できて良かった。

### 作業部会答申内容の概略 起死回生の一打

業務推進本部 桐合 澄男

今、本会には、起死回生の一打が必要と考える。最近、とみに会員の加入状況の悪化が進み、それは入会者の激減のみならず、中途退会者の増加による弱体化が顕著になったからである。

危機を直視した多田会長からの諮問を受けた私たち作業部会は、次のような検討を行った。

#### 一、会員の呼称の変更

会員は、居住地、勤務地のいづれにも所属可能となったのを機に、従来のAB会員制を改め、呼称名を新たな内容に改訂するものである。新呼称名を三つにし、正会員、特別会員、奨励会員と呼称する案である。

新用語に慣れるのにはこれは時間がかかるもの。時間がかかってでも改革は起死回生の一策に繋がると考えていきたい。

#### 二、正会員とは

正会員は、本部・支部の双方

に会費を納入した時に、正会員となる。つまり、本部・支部双方の所属である。したがって、特別会員、奨励会員として、他支部の活動に参加することができ。（支部運営規則第四条）

様々な活動（メリット）への参加が楽しみなったと考える。

#### 三、特別会員とは

特別会員は、正会員である者が、他支部の活動に参加を希望し、その支部の会費を納入して、支部活動全般に参加する者という。（支部運営規則第五条）

#### 四、奨励会員とは

奨励会員は、正会員である者が、他支部の一部の活動のみに参加する者をいう。

但し、参加者は、個々の活動ごとに必要に応じて諸経費を納入する。（支部運営規則第六条）  
以上が、案の概略である。

#### 五、周知方について

ABの呼称は、令和三年十二月三十一日をもって廃止する。起死回生の一打になってほしい。

## コロナ禍の中で

日南支部長 馬場 武

新型コロナウイルスの感染者が増え続け、会員の高齢化と三密を避けるために、会の活動が例年のように出来ないことが残念です。

五月に予定した総会は、十一月に変更、しかし、書面審査になり、会則改定と特別会計の重要案件が承認されました。

会費の集金は地区によっては振り込みになり、すべて完了し本部に送金できました。

役員会は九月に一回のみ、三月には来年度の総会の為に予定しています。事務局の活動ですが支部会報（日南五〇号）を一月末に発行します。

新型コロナウイルスのような疫病の流行は社会の弱点を露呈し、それを克服することによって、より良い社会が形成されると歴史的に証明されているようです。それを期待し、前向きに活動していきたいと思っています。

## コロナ禍後を見据えて

北多摩北部支部長 小畑 敦男

新型コロナウイルスの感染が瞬く間に世界に広がり、我が国でもいまだ終息の気配がありません。人々の生活や経済活動にも深刻な影響を及ぼしています。

本支部では、不安を抱えながらも昨年三月、運営委員会を開催し、本年度支部活動の方向を話し合い、会員の健康と生命を守ることを最優先することを確認しました。定期総会は文書をもって行い、主たる行事である「一日研修会」も中止することとしました。広報活動は活動の制限も少ないことから、一層の充実を図るよう努めてきました。

このような中にあっても、新会員の加入という嬉しい話題もありました。会員相互の交流が希薄になることは痛恨の極みですが、コロナ禍後を見据え、今は埋み火となつて、可能な活動を探っていきたいと思っています。

## 保障が充実。 なのに、ムダがない アフラックの医療保険。

ライフステージの変化に合わせて、  
その時々で必要な保障を変えられるため、  
ムダなく最適な保障を備えていただけます。



**No.1** がん保険  
医療保険  
保有契約件数  
令和元年版 インシュアランス生命保険統計号  
約4世帯に1世帯がアフラックの保険に加入  
(詳細はホームページをご確認ください)



〈募集代理店〉(アフラックは代理店制度を採用しています)

三井住友トラスト・ライフパートナーズ株式会社

☎ 0120-357-212 FAX 03-3233-6754

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-1

◎商品の詳細は「パンフレット」「契約概要」などをご確認ください。

〈引受保険会社〉

「生きる」を創る。

**Aflac**

アフラック  
東京第一法人営業部  
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1  
新宿三井ビル19階  
Tel.03-3344-1446

AFツール-2020-0347-2101001 10月22日

(令和3年1月27日現在)

## 物故者

謹んでご逝去を悼み  
ご冥福をお祈り申し上げます

| 氏名    | 年月日      | 支部名  | 校種 | 年齢 | 名簿頁 |
|-------|----------|------|----|----|-----|
| 橋詰 義昭 | 令元12・11  | 日南   | 小  | 89 | 52  |
| 長沢 良雄 | 令2・3・10  | 埼玉県  | 中  | 96 | 99  |
| 町田 植男 | 令2・8・9   | 埼玉県  | 小  | 89 | 100 |
| 鈴木 久夫 | 令2・8・18  | 埼玉県  | 中  | 82 | 95  |
| 松本 英之 | 令2・9・4   | 渋谷   | 小  | 88 | 18  |
| 村上 誠  | 令2・9・5   | 目黒   | 中  | 93 | 9   |
| 秋山 忠典 | 令2・9・7   | 北・西  | 小  | 89 | 73  |
| 亀岬 嘉子 | 令2・9・25  | 世田谷  | 小  | 95 | 14  |
| 亀山恵之助 | 令2・9・27  | 八王子  | 小  | 90 | 48  |
| 渋谷 安  | 令2・9・27  | 埼玉県  | 中  | 88 | 96  |
| 中牧 修  | 令2・10・6  | 練馬   | 小  | 87 | 35  |
| 須山 弘一 | 令2・10・6  | 葛飾   | 小  | 79 | 39  |
| 永井 昭  | 令2・10・7  | 杉並   | 小  | 93 | 20  |
| 森田 厚  | 令2・10・8  | 西多摩  | 中  | 90 | 82  |
| 池田 忍  | 令2・10・12 | 渋谷   | 中  | 82 | 18  |
| 角野 征大 | 令2・10・12 | 西多摩  | 中  | 76 | 79  |
| 池口 忠重 | 令2・10・14 | 北・北  | 小  | 88 | 63  |
| 小川 賢司 | 令2・10・16 | 埼玉県  | 中  | 71 | 96  |
| 山北 主夫 | 令2・10・23 | 八王子  | 小  | 90 | 48  |
| 谷垣 英三 | 令2・10・23 | 千葉北  | 小  | 85 | 92  |
| 吉田 博  | 令2・10・27 | 埼玉県  | 小  | 85 | 99  |
| 野原 明  | 令2・10・31 | 武・三  | 中  | 83 | 57  |
| 寺田 昌孝 | 令2・11・6  | 大島   | 小  | 83 | 82  |
| 森田 信義 | 令2・11・6  | 江戸川  | 中  | 87 | 42  |
| 池田 春男 | 令2・11・10 | 西多摩  | 小  | 86 | 79  |
| 五所 愛子 | 令2・11・13 | 武・三  | 中  | 88 | 57  |
| 柴田 哲  | 令2・11・14 | 狛江   | 中  | 94 | 71  |
| 浅子 昭三 | 令2・11・15 | 世田谷  | 小  | 92 | 17  |
| 山本武太郎 | 令2・11・18 | 千葉西  | 中  | 92 | 89  |
| 川瀬 正博 | 令2・11・19 | 世田谷  | 中  | 75 | 16  |
| 岩田 真澄 | 令2・11・21 | 新宿   | 小  | 98 | 2   |
| 石谷 浩  | 令2・11・29 | 目黒   | 小  | 98 | 9   |
| 江崎 武  | 令2・12・4  | 板橋   | 小  | 96 | 27  |
| 本多孝一郎 | 令2・12・6  | 目黒   | 小  | 91 | 9   |
| 前田 徹  | 令2・12・9  | 神奈川県 | 高  | 89 | 104 |
| 松村 義朗 | 令2・12・13 | 北・北  | 小  | 92 | 59  |
| 木山 高美 | 令2・12・13 | 北・北  | 中  | 87 | 62  |
| 山下 渡  | 令2・12・15 | 練馬   | 小  | 90 | 34  |
| 三橋 正之 | 令2・12・18 | 杉並   | 小  | 86 | 22  |
| 老川 秀夫 | 令2・12・24 | 台東   | 中  | 85 | 4   |
| 植松 千枝 | 令3・1・11  | 足立   | 小  | 90 | 36  |
| 深沢 真人 | 令3・1・11  | 北・中  | 小  | 96 | 64  |
| 菊地 洋二 | 令3・1・13  | 世田谷  | 小  | 87 | 16  |

## 「新しい日常」を考える

三宅島支部長 浅沼 洋

三宅島の小中学校では、七年前より一人一台のタブレット端末を全員が活用しています。今年度のGIGAスクール構想を受けて、新機種となりました。今回の臨時休校中のオンライン学習では、有効に活用されたと聞いています。

最近、「新しい日常」という言葉がよく使われます。このコロナ禍の中、学校でICT教育がより求められるように、アフターコロナの社会で日常生活は大きく様変わりするかもしれません。そして、三宅島支部の活動も今回影響を受けましたが、何かを見直す必要があるかもしれません。しかし、こういう時期だからこそ、今後も会員相互に連絡を取り合い、プラスの方に向けて模索し活動が続けたいと考えています。

## 編集後記

卒業の季節が巡ってきました。昨年は政府の要請による臨時休校中での異例の卒業式でした。しかし良い思い出も様々生まれました。ある小学校では、卒業生と教職員だけの短い式を終えて校庭に出てきた卒業生を、校庭で待っていた保護者たちが一斉に拍手と笑顔で迎えました。それに応えて、距離を取って並んだ卒業生は「卒業の歌」を高らかに歌いました。今年も制約の多い式になりそうですが、感動のある卒業式にしようと、先生と児童・生徒が一緒になって相談していると聞いています。

会報210号は「コロナ特集」を組みました。報告を読むと多くの会合や活動は中止を余儀なくされていますが、それでも会員の繋がりを強める工夫と努力がなされていることが分かります。また新会員の力強い言葉に元気づけられます。会員揃って晴れて活動できる日が待たれます。

(西田敦子)